

ト・サイクルにおいて、合目的に有機的に運営調整してゆく統一的過程が、家庭管理の機能であり、本質である。

11. 農家経済学と家庭経営学

家庭管理の本質と機能

岐阜女子短大 今井 光映

1. 家政学を家庭経営のための実践的学問として、また家庭経営学として理解したいのであるが、この家庭経営学はいわゆる家庭経済学とどのような研究接近上の差異を有し、しかも関連を有するかを考察し、そこから家庭経営学の本質を把握してみた。

2. まず、家計論と考えられるべき諸接近を、それぞれ内容説明し、範疇づけてみると、(1)家計分析の実態調査的接近、(2)消費者経済学的接近、(3)家庭財務管理論的接近、(4)家庭経営の計量経済学的接近(リニアール・プログラミングなど)(5)ドイツ流の家計の経営本質論的接近、(6)アメリカ流の Home Economics 的接近、(7)近代経済学における消費理論的接近。

このうち、(7)の家庭経済事実把握の理論的接近を家庭経済学、(1)~(6)の家庭経済運営の実践的接近を家庭経営学としたい。前者は理学部、後者は工学部の内容関係に譬えられよう。

3. この家庭経済体は主体としての家族と、それが有する人的諸資源と、家族が生活上必要とする物的資源という主体的、客体的諸要素から構成されているから、諸資源——諸資源の関係、諸資源——家族の関係、家族——家族の関係(狭義の家族関係)などの、いわば家庭の諸関係を、計画→実行→評価→調整→計画→のマネジメント